

# カンボジアにおける教育と職業訓練の現状

2019年7月

JICA カンボジア/TVET プロジェクト

2019年1月、カンボジア労働職業訓練省（MLVT：Ministry of Labour and Vocational Training）は、同省傘下の職業訓練校の2017年秋以降1年間の新規入学者のデータを発表しました。ここではカンボジアにおける教育・職業訓練の現状を整理し、技術職業教育訓練（TVET：Technical and Vocational Education and Training）の特徴を探ってみたいと思います。

## 1. 教育・職業訓練の体系・仕組み（注1）

カンボジアの義務教育は、日本と同じく小学校6年、中学校（初等中等教育）3年の9年間です。学校は通常月曜日から土曜日までで、約7割の小学校、約2割の中学・高校での授業は午前と午後の2部交代制となっています（小学校では教育課程上は問題なし）。

中学校の卒業生には、就職のほか、大きく分けて一般教育、職業教育へ進学するルートがあります。高校入試は基本的に行われておらず、中学卒業試験に合格した進学希望者は、居住地によって、進学する高校が決まります。私立高校は独自に選抜を行っていますが、小規模にとどまります（全高校生数は約30万人、うち私立高校は約2万人）。

一般教育ルートの高校での3年間は、職業訓練ルートでは、後述のCQFにおけるC1, C2, C3が対応します。

高校生にとっては、卒業試験（全国統一高校卒業試験）がその後の進路を決める重要な機会となります。大学入試や職業訓練校の入試は基本的になく、卒業試験に合格すると、一般教育ルートの大学、職業訓練校の4年制課程（バチエラー・コース）や2年制課程（ディプロマ・コース）への入学資格が得られます。一方、不合格の場合は、職業訓練校の2年制課程への入学が認められます。進学希望者は、評価（100点満点のスコアの50点以上が合格（グレードは高い順にA～E）、50点未満は不合格F）によって、希望のコースへの進学ができるかどうかが決まります。不合格者は、高校3年生を留年して翌年に試験を受け直したり、進学をあきらめて就職したりします。

2018年の卒業試験は8月20～21日に実施され、7万6,034人が合格（合格率は約67%）となりました。（注2）

2016-17年の実績で見ると、就学率（小学校 93.5%、中学校 55.7%、高校 25.1%）、中途退学率（同 4.6%、同 17.0%、同 19.4%）、卒業率（同 79.9%、同 42.6%、同 20.2%）とも（いずれも私立学校を除く数値）、十分な状況にあるとは言えず、少なくない学生が依然として中途退学となっています。（注 3）

## 2. 職業訓練ルート

カンボジアにはプノンペン特別市と 24 の州がありますが、労働職業訓練省（MLVT）傘下の職業訓練校は、プノンペンに 8 校、その他の各州に 31 校、計 39 校があります。（注 4）プノンペンにあるのは、当プロジェクトのパイロット職業訓練校である NPIC（National Polytechnic Institute of Cambodia）、NTTI（National Technical Training Institute）、PPI（Preah Kossomak Polytechnic Institute）の 3 校のほか、CIEDI（Cambodia-India Entrepreneurship Development Institute）改め NIEI（National Institute of Entrepreneurship and Innovation）、CTSDI（Cambodian-Thai Skills Development Institute）、ITI（Industrial Technical Institute）、NIB（National Institute of Business）、JVC（JVC Technical College）です。（注 5）

また、5 つの地方拠点校（Regional Polytechnic Institute）がシエムリアップ、バタンバン、カンポット、タケオ及びスヴァイリエンにあります。プノンペンと、5 つの地方拠点校を中核としたグループの 6 つがそれぞれクラスター（学校群）を形成しています。

CQF（Cambodia Qualifications Framework）は、職業訓練コースの学習レベルに応じた資格です。CQF1-8 の 8 段階があり、順に VC（Vocational Certificate）、C1、C2、C3、Diploma（短大 2 年制）、Bachelor（大学 4 年制）、Master（修士課程）及び Doctor（博士課程。ただし、MLVT 傘下の訓練校ではまだ開設されていません）となっており、訓練コースのプログラムはいずれかに分類されます。履修期間は、VC が基本的に 1 年未満で「ショート・コース」、C1 以降が 1 年以上で「ロング・コース」と整理されます。

## 3. MLVT 傘下の職業訓練校への入学者の状況（2017 年秋）（注 6）

2017 年秋の入学者数を、労働職業訓練省（MLVT）傘下の職業訓練校 39 校についてみると、44,806 名、うちショート・コースが 27,135 名、ロング・コースが 17,671 名で、入学者数の比率は 6 : 4 となっています。プノンペン特別市と、プノンペン以外の 24 州（シエムリアップやバタンバンなどの都市が含まれますが、以下では便宜上、「地方」と整理します。）にある訓練校とで状況は大きく異なり、プノンペンにある 8

校ではロング・コースが 93.8%、地方にある 31 校ではショート・コースが 84.0%を占めます。地方では、ロング・コースの開設されていない訓練校が 10 校あります。〈表 1、図 1-1、1-2〉

表 1. 地域別・コース別にみた入学者数（男女計）

（単位： 人、％）

	計	ショート コース	ロング コース	短大	大学	その他
				2 年制	4 年制	
プノンペン (8 校)	13,492 (100.0)	841 (6.2)	12,651 (93.8)	3,786 (28.1)	7,973 (59.1)	892 (6.6)
NPIC	2,873	-	2,873	700	2,081	92
NTTI	1,460	-	1,460	575	858	27
PPI	4,180	-	4,180	1,168	2,732	280
他 5 校	4,979	841	4,138	1,343	2,302	493
プノンペン以外 (31 校)	31,314 (100.0)	26,294 (84.0)	5,020 (16.0)	1,852 (5.9)	818 (2.6)	2,350 (7.5)
計 (39 校)	44,806 (100.0)	27,135 (60.6)	17,671 (39.4)	5,638 (12.6)	8,791 (19.6)	3,242 (7.2)

（資料出所）カンボジア労働職業訓練省「TVET 統計 2017-2018 年」（2019 年 1 月）表 9-10

図1-1. 入学者のコース別構成比  
(プノンペン)

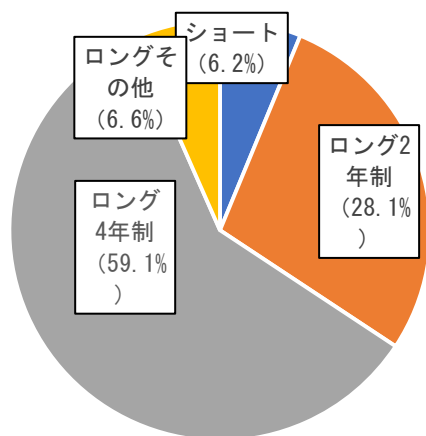
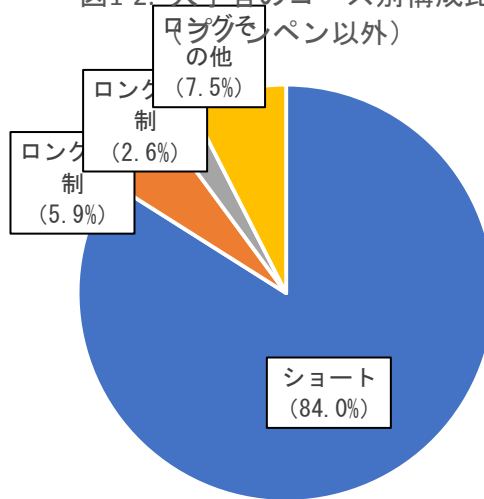


図1-2. 入学者のコース別構成比  
(プノンペン以外)



男女別の入学者数をみると、男性は 23,935 名 (53.4%)、女性は 20,871 名 (46.6%) です。男女とも、プノンペンではロング・コースで学ぶ者がそれぞれ 9 割以上 (男性 93.7%、女性 94.0%) となっています。一方、地方ではショート・コースで学ぶ者が、男性は 4 分の 3 (75.8%)、女性は 9 割以上 (90.6%) となっています。ショート・コースの入学者は地方に多く、内戦からの復興後、現在でも、特に地方

の職業訓練において依然として大きな役割を果たしていることがわかります。専攻分野は、家畜や野菜の育成、肥料等の農林水産業関係、電気の接続、機械の修繕などです。〈表 2、表 3〉（注 7）

表 2. 地域別・コース別にみた入学者数（男性）

（単位：人、％）

	計	ショート コース	ロング コース	短大	大学	その他
				2年制	4年制	
プノンペン (8校)	9,984 (100.0)	632 (6.3)	9,352 (93.7)	3,000 (30.0)	5,545 (55.5)	807 (8.1)
NPIC	2,569	-	2,569	610	1,879	80
NTTI	1,315	-	1,315	526	764	25
PPI	3,314	-	3,314	1,015	2,026	273
他5校	2,786	632	2,154	849	876	429
プノンペン以外 (31校)	13,951 (100.0)	10,571 (75.8)	3,380 (24.2)	1,232 (8.8)	481 (3.4)	1,667 (11.9)
計(39校)	23,935 (100.0)	11,203 (46.8)	12,732 (53.2)	4,232 (17.7)	6,026 (25.2)	2,474 (10.3)

（資料出所）カンボジア労働職業訓練省「TVET 統計 2017-2018 年」（2019 年 1 月）表 9-10

表 3. 地域別・コース別にみた入学者数（女性）

（単位：人、％）

	計	ショート コース	ロング コース	短大	大学	その他
				2年制	4年制	
プノンペン (8校)	3,508 (100.0)	209 (6.0)	3,299 (94.0)	786 (22.4)	2,428 (69.2)	85 (2.4)
NPIC	304	-	304	90	202	12
NTTI	145	-	145	49	94	2
PPI	866	-	866	153	706	7
他5校	2,193	209	1,984	494	1,426	64
プノンペン以外 (31校)	17,363 (100.0)	15,723 (90.6)	1,640 (9.4)	620 (3.6)	337 (1.9)	683 (3.9)
計(39校)	20,871 (100.0)	15,932 (76.3)	4,939 (23.7)	1,406 (6.7)	2,765 (13.2)	768 (3.7)

（資料出所）カンボジア労働職業訓練省「TVET 統計 2017-2018 年」（2019 年 1 月）表 9-10

ロング・コースの入学者の多くはプノンペンで学んでおり、全国の入学者数に占めるプノンペン（8校）の割合は約 7 割（71.6%）、うち短大 2 年制コースでは 67.2%、大学 4 年制コースでは 90.7%となっていま

す。(注 8) さらには、当プロジェクトのパイロット 3 校 (NPIC/NTTI/PPI) が占める割合は約 5 割 (48.2%)、うち短大 2 年制コースは 43.3%、大学 4 年制コースは 64.5%となっています。3 校でロング・コースの多くの入学者数を占めています。〈前掲表 1〉

ロング・コースの入学者の専攻分野は、多い順に電気 (29.3%)、土木工学 (15.8%)、情報技術 (10.1%)、会計・金融 (8.3%)、自動車 (8.0%) となっています。これらの上位 5 分野で入学者の 7 割以上を占めており、この順番は前年と変更がありません。文系の専攻 (会計・金融、ビジネス、銀行・金融、英語、会計、マーケティング、観光・ホスピタリティ) は、短大 2 年制コースと大学 4 年制コースがほとんどとなっています。〈表 4〉

表 4. ロング・コース入学者の専攻分野

(単位： 人、%)

		合計				
		(シェア)		短大 2 年制	大学 4 年制	その他
1	電気	5,098	29.3	2,148	2,147	803
2	土木工学	2,749	15.8	645	1,696	408
3	情報技術	1,765	10.1	461	511	793
4	会計・金融	1,443	8.3	336	1,107	-
5	自動車	1,384	8.0	509	445	430
6	ビジネス	791	4.5	212	579	-
7	銀行・金融	687	4.0	140	547	-
8	電子	685	3.9	174	487	24
9	英語	644	3.7	478	166	-
10	機械	356	2.0	-	240	116
11	エアコン	306	1.8	107	20	179
12	会計	288	1.7	66	222	-
13	マーケティング	270	1.6	76	194	-
14	建築	192	1.1	-	192	-
15	観光・ホスピタリティ	190	1.1	80	101	9
16	その他	543	3.1	188	137	218
合計		17,391	100.0	5,620	8,791	2,980
(シェア)		100.0	-	32.3	50.5	17.1

(資料出所) カンボジア労働職業訓練省「TVET 統計 2017-2018 年」(2019 年 1 月) 別表 5-10

短大 2 年制コースでは全体の約 4 割 (38.2%) の学生が電気専攻となっています。また、全国の入学者全体のうち、電気専攻の短大 2 年制コース、大学 4 年制コースが占める割合は、それぞれ 8 分の 1 (12.4%、12.3%) となっています。〈前掲表 4〉

#### 4. 終わりに

教育・職業訓練による人材育成は政府の重要課題と位置付けられており、2018 年秋に公表された「四辺形戦略」フェーズ 4 でも重点分野とされています。（注 9）これに伴い、カンボジア政府のみならず、各国・国際機関がドナーとして支援する動きも活発になっています。

当プロジェクトとしても、一層の TVET の質の向上に取り組んでいきたいと考えています。

（注 1）第 1 項の作成に当たりまして、教育・青少年・スポーツ省発表のデータや学校教育の実情の確認に際し、在カンボジア日本国大使館の協力を得ました。ここに記して感謝します。

（注 2）NNA アジア経済ニュース 2018 年 9 月 18 日号

（注 3）2019 年 2 月、中学校（7～9 年生）を中退した人にインターネットで無料の教育機会を提供する「基礎教育同等プログラム」（BEEP : Basic Education Equivalency Programme）の試験運用が開始され、プノンペンのカンボジア工科大学（ITC、教育・青少年・スポーツ省（MOEYS）傘下）内に学習センターが開所されました。BEEP は、教育・青少年・スポーツ省、労働職業訓練省（MLVT）と国連教育科学文化機関（UNESCO）が提携し、ITC が協力してプログラムを開発したものです。数学や英語、IT、起業、観光などのコースを提供し、履修試験に合格すれば、中卒者として認定され、次のステップとして、労働職業訓練省が提供する「技術・職業教育・研修プログラム」を無料で受講できるようになっています。教育・青少年・スポーツ省によると、今後、センターをプノンペンとシエムリアップで約 10 カ所まで増やす計画とのことです。

（NNA アジア経済ニュース 2019 年 2 月 19 日号）

（注 4）職業訓練校にはこのほか、他省庁が管轄するもの、私立のもの、NGO 等団体によるものがあります。

（注 5）このうち NTTI、PPI、NIEI、ITI の 4 校は同じ敷地内にあり、“TVET Park”として一部の機能が統合される計画があります。

（注 6）データはカンボジア労働職業訓練省「TVET 統計 2017-2018 年」（2019 年 1 月）によります。

[http://www.tvetmis.com/public/docs/TVET\\_statistics\\_2017\\_2018\\_EN.pdf](http://www.tvetmis.com/public/docs/TVET_statistics_2017_2018_EN.pdf)

（注 7）注 6 に記載した資料の別表 1 により入学者数をみると、多い順に、養鶏 5,875 名、野菜の育成 4,790 名、養豚 3,084 名、肥料 1,478 名、きのこの育成 1,296 名となっています。

（注 8）短大 2 年制コースを卒業後、大学 4 年生コースに編入される者もいます。

(注 9) 2018 年秋に公表された、カンボジア政府が政策課題への対応の方向性を示すもので、「四辺形」は成長、就業、平等及び効率を指します。今後 5 年間の 4 つの優先分野は、人的資源開発のほか、経済の多様化、民間セクター開発・市場開拓、及び、持続的で包摂的な開発となっています。

(了)